

# 福岡の生んだ全国有数の中国問題専門家 通訳とビジネスコンサルティング通じ広範な人脈築く

## 日中友好の架け橋に

1985年、後の胡錦濤中国国家主席が、中国共産主義青年団の一員として福岡を訪れた時、青木麗子さんは県庁職員としてメイン通訳を務めた。この時、胡氏が將軍国家主席になろうとは誰も予想しなかった。

通訳としてそんな華やかな経験を持つ青木さんは福岡というよりも、もはや日本有数の中国ウォッチャーであり、中国問題の泰斗だ。1年の三分の一を中国やアジア、ヨーロッパなどの海外ですごし、日本国内にいるときも講演やコンサルタントで東京と福岡を往復する。博多駅にほどちかい場所にあるオフィスの席を暖める暇もないほどだ。家庭では大学生の長男を筆頭に3人の子供を育てながら、小柄な身体はどこにそんなエネルギーがあるのか感心させられる。

恐らくは生涯をかけて日本と中国の架け橋になるという熱い思いが青木さんを突き動かすのだろう。

## 中国国家要人の通訳を担当

人格形成の重要な幼少期を中国で過ごし、両親とともに福岡に戻った。就職した福岡県庁では、中国語の語学力を買われ、来福した中国国家要人のメイン通訳に当たった。その1人が胡錦濤主席だった。

通訳としての青木さんの声価を決定的にしたのは、92年来福した江沢民主席の通訳を務めてから。政治家の発言を訳すのには正確さだけでは務まらない。高度な専門知識はもちろん、発言の真意を汲み取り、外交関係にも配慮する微妙なセンスを要求される。青木さんがこの大役をこなせたのは、少女時代を中国で送り、日中双方のものの考え方に通じていたからだろう。

## 目標は鑑真和上

日中の要人の通訳を務めるうち、人脈が広がり、両国の政治・経済情報について深く知るところとなった。自民党の山崎拓元副総裁もその1人で、同じ福岡のよしみもあってたびたび訪中に同行。小泉内閣時代、ギクシヤクする日中関係を改善しようとする山崎氏を影で支えた。中国では中央政府から省の幹部、大学、企業関係者と知己は全国に広がる。そんな青木さんの話を聞こうと大商社はじめ講演依頼は引きも切らない。

福岡への思い入れは中国に勝るとも劣らない。県庁職員以来、今日まで育ててくれたのは福岡との思いがあるからだ。「福岡県あつての青木麗子です。県との関係なくして今日の私はありません」。

福岡県政のよきアドバイザーとして県の国際交流を影で支える。青木さんが気にしているのは、「政冷経熱」といわれる最近の両国関係だ。「経済関係では密接になっていますが、真の信頼関係は存在していません」という疑念が拭きできません。青木さんが日中関係のあり方として引き合いに出すのが、奈良時代に中国から日本に渡った鑑真和上。「和上の精神を学び、両国国民が互いに徳を積み、互いを尊重し信頼することで初めて未来がやってくるのではないのでしょうか」。目標と仰ぐ鑑真和上の生き方にこそ日中友好の原点があると説いてやまない。



青木麗子オフィスがコーディネートする国際会議



株式会社日中ビジネスコンサルティング  
代表取締役社長

**青木 麗子**  
あおき れいこ



1959年生まれ。福岡県職員を経てアメリカとイギリスに渡り、後に通訳事務所・青木麗子オフィスを設立して独立。現在(株)日中ビジネスコンサルティング社長はじめ、九州上海事務所エグゼクティブ・アドバイザー、福岡大学経済学部非常勤講師など要職多数。著書に「中国夢大地」(エビマガジン社)、「中国風大地」(海鳥社)、訳書に「大河奔流」(奈良日日新聞社)など。

会社住所：福岡市博多区博多駅前 4-36-29  
TEL：092-433-2136  
URL：http://www.dlc-fukuoka.jp